

# 第1学年 道徳学習指導案

日時 平成28年11月9日(水) 4校時  
学級 1年4組(男13名 女15名 計28名)  
場所 1年4組教室  
指導者 石澤祐治

- 1 主題名 家族のきずな 【C—(14)】
- 2 資料名 私たちの道徳「一冊のノート」P186～193
- 3 主題設定の理由

## (1) 価値について

道徳学習指導要領の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」－[家族愛，家庭生活の充実]とある。これは、父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする内容項目である。

この内容項目は、小学校低学年の(13)「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。」中学年の(14)「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。」、高学年の(15)「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つこと」を受けたものである。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。そのため、父母や祖父母に反抗的になるという面も見られる。また、一方で家族の一員として役割を担うことで家庭の仕事の大変さや家族の有り難さが分かってくることもある。家族との関わりを振り返らせながら、家族が相互に深い絆で結ばれていることを自覚し、家族に感謝することがより充実した家庭生活を築くことにつながることを生徒一人一人に深く考えさせたい。

## (2) 生徒について

祖父母と同居している生徒は少ないが、近くで生活し、食事や買い物などを一緒にし、祖父母と良好な関係の生徒が多い。共働きや片親の家庭が多く祖父母にお世話になっている環境の中生活をしている。そのためか、多くの生徒が父母だけでなく祖父母も、自分の成長にとって欠かせない大事な家族であると感じている。

しかしながら、家族が自分のためにしてくれる様々なことを当然のことと受け止めたり、時には家族への甘えから横柄な態度をとったりすることもある。

そのような生徒に、自分は家族の深い愛情を受けて育ってきたことを改めて感じ取らせるとともにに家族はかけがえのない存在であることに気付き、互いに支え合って生活していこうとする心情を育てることは、必要なことである。

父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする態度を資料から考えさせ、これからどのような気持ちで生活をしていけばいいのかを考えさせていきたい。

## (3) 資料について

本資料は、主人公である「僕」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、その奥にある祖母の思いが描かれている。トラブルから祖母に不満を感じる「僕」だったが、ある日、一冊のノートを見つけ、そこに書かれていた祖母の苦悩と自分が受けてきた深い愛情に気づく。

「僕」が、祖母とのかかわりに思い悩みながらも、祖母への理解を深めていった姿を通じて家族は深い愛情によって結ばれていることに気付き、互いに支え合って生活していこうとする大切さを考えることができる資料である。

本学級には、同じような経験をしたことのある生徒はあまりいないと思われるが、家族との関わりの中で似たような経験をした生徒は多数いると思われ、本資料の「僕」の思いは生徒にとって共感しやすいと考えられる。「僕」が抱くさまざまな思いに共感させながら、ねらいとする価値に迫っていきたいと考える。

#### (4) 研究主題との関わり

「いわての復興プログラムの具体の21項目③「価値ある自分」⑧「家族のきずな」

「自己肯定感をもち、復興に貢献しようとする生徒の育成」

～いのちを大切に、郷土を理解する活動を通して～

自己肯定感は、自己を見つめる心の動きであり、この自己を見つめる心は自己から見た自分と他者から見た自分の2通りが考えられる。よって、自尊感情を育てるためには、自己を見つめ自己の考えや良さに気づき、「自己を肯定的に評価できる場」とお互いの意見を交流させながら、他者の考えや気持ちから学んだり、重要な他者である友達や家族、教師から受容されたり気持ちから学んだり、「他者から肯定的に評価される場」を設定することが重要であるとする。そこで、協働的な学びの場を生かした指導の工夫を行うことにより、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、自尊感情を高めることができ、そのことが、道徳性を高めることができ、そのことが、道徳性を高めることにつながっていくと考えた。

そこで、授業の中に以下の2つの学習活動を位置づける。

① 意見のすり合わせや多様な思考を表現し、交流する協働的な学びの場を位置づける。

本時においては、中心発問である『「ぼく」は、だまって草を取りながら、心の中でおばあちゃんにどんなことを語りかけていただろう。』についてその考えをワークシートに書き、考えを交流させていく。そして、交流する中で、新たな気づきなどがあつた場合には自由に書き加えるようにしていくことで考えを深めさせていく。十分に話し合わせ、祖母の愛情を感じた「ぼく」が、家族の中で互いに支え合うことの大切さに気付いた姿に気づき、父母、祖父母に敬愛の念を深め、お互いを思いやりながら家庭生活を送ろうとする態度を理解させたい。

② 終末において、生徒の日常的な言動に対する価値付けの場を位置づける。

本時においては、作文を聞き、家族や家庭生活の中で自分でも何かできるのではないかという意識を持たせることで、今後の家庭生活の充実に向かわせたい。

4 教材分析図

主要場面	心の動き	気づかせたいこと	おもな発問
<p>ある日、部活動が終わって僕は友達と話しながら帰宅する途中に、変てこりんな格好の祖母と会う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係ないふりをしよう。</li> <li>・なんでそんな変な格好をしているんだ。恥ずかしい。</li> <li>・友達と一緒にのときに会うなんて。</li> <li>・どうしたらいいだろう。</li> <li>・ぼくの祖母だとわかったら、ぼくがからかわれる。いやだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母の異変に気付き心配をしつつも、困惑している「ぼく」と弟の状況を押さえておく。</li> <li>・祖母の格好に違和感を感じただけでなく、さらに友達が祖母を見て非難したことで恥ずかしい気持ちになった「ぼく」の気持ちに共感させる。</li> </ul>	<p>学校帰り、薬局の前で奇妙な格好をした祖母を見たとき、「ぼく」はどう思っただろう。</p>
<p>祖母のことで、父親と僕と弟で話をし、現在の祖母は記憶が相当弱まっていることを伝えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が困ったり迷惑をかけられたりするの嫌だ。</li> <li>・困っているのは、祖母じゃなく僕たちだ。</li> <li>・これまで、いろいろとおばあちゃんがやってくれていたのに。急に自分でするのは無理だ。</li> <li>・昔はこんな祖母じゃなかったのに。</li> <li>・祖母も困っているのかな。</li> </ul>	<p>父の話を聞いて、祖母を一方的に責める気持ちから、祖母のこれまでのさまざまな思いを聞いて、戸惑いの気持ちが大きくなっている僕の気持ちを共感させたい。</p>	<p>父に出来事を訴えたあと、父から祖母のことを聞き、何も言えなくなったのはどんな気持ちからだろうか。</p>
<p>祖母の部屋で汚れたノートを見付け何気なく見て、祖母の気持ちを知る。庭の片隅でかがみこんで草取りをする祖母と並んで草取りを始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり者の祖母だったのに。変わっていくなんて信じられない。</li> <li>・どうにかしたいけど、どうしていいかわからない。</li> <li>・これまでつらく当たって悪かった。</li> <li>・ひどいことをたくさん言ってごめんね。</li> <li>・祖母の思いに気付かず、本当にごめんなさい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母のノートを再読し、祖母の思いを知ったときの「ぼく」の気持ちを感じ取らせてから、発問する。</li> <li>・祖母の愛情を感じた「ぼく」が、家族の中で互いに支え合うことの大切さに気付いた姿に共感させる。</li> </ul>	<p>「ぼく」は、だまって草を取りながら、心の中で祖母にどんなことを語りかけていだろう。</p>

5 本時の指導

(1) ねらい かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 自分の家族について出し合う。 ○最近、家族にしてもらったことで感謝していることはどんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時に相談にのってくれた</li> <li>・雨の日に車で迎えにきてくれた。</li> <li>・ご飯をいつも作ってくれる</li> <li>・好きなものを買ってくれる。</li> </ul>	○自分が家族とどのようにかかわっているかを出し合い、家族について考えるきっかけとする。
展開 35分	2 資料「一冊のノート」を読んで話し合う。 ○学校帰り、薬局の前で奇妙な格好をした祖母を見たとき「ぼく」はどう思っただろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係ないふりをしよう。</li> <li>・なんでそんな変な格好をしているんだ。恥ずかしい。</li> <li>・友達と一緒にのときに会うなんて。</li> <li>・ぼくのおばあちゃんだとわかったら、ぼくがからかわれる。いやだ。</li> </ul>	○祖母の異変に気付き心配をしつつも、困惑している「ぼく」と弟の状況を押さえておく。 ○祖母の格好に違和感を感じただけでなく、さらに友達が祖母を見て非難したことで恥ずかしい気持ちになった「ぼく」の気持ちに共感させる。
	○父に出来事を訴えたあと、父から祖母のことを聞き、何も言えなくなったのはどんな気持ちからだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母がいろいろしてくれていたのを知って、祖母がかわいそうになって言えなくなった。</li> <li>・今まで祖母を一方的に責めていたけれど、祖母に頼りきりだったから、どっちつかずになり何も言えなくなった。</li> <li>・祖母は本当に大丈夫だろうか？</li> </ul>	○父の話聞いて、祖母を一方的に責める気持ちから、祖母のこれまでの様々な思いを聞いて、戸惑いの気持ちが大きくなっている僕の気持ちを共感させたい。
	◎「ぼく」は、だまって草を取りながら、心の中で祖母にどんなことを語りかけていただろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり者の祖母だったのに。変わっていきななくて信じられない。</li> <li>・これまでつらく当たってごめんね。</li> <li>・ひどいことをたくさん言ってごめんね。</li> <li>・小さい頃からかわいがってくれてありがとう。</li> <li>・祖母の思いに気付かず、申し訳ない。</li> <li>・今度は、ぼくが祖母を支えていくからね。</li> </ul>	○祖母の愛情を感じた「ぼく」が、家族の中で互いに支え合うことの大切さに気付いた姿について話し合わせながら十分に共感させる。
	4 自己と価値を結びつけて話し合う。 ○家族に対してどのように接してきましたか？  ○家族の為にできることはなにかありますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんなことを話し合っている。</li> <li>・困った時に助け合っている。</li> <li>・機嫌が悪い時、つらく当たってしまう。</li> <li>・生意気な態度をとってしまう。</li> <li>・話かけても無視してしまう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できることは自分でする。</li> <li>・困ったときやつらい時は助け合う。</li> <li>・兄弟の世話をする。</li> <li>・家の手伝いを進んでやる。</li> </ul>	○家族に対する対話や態度などの接し方を振り返らせ、家族の在り方や大切さについて共有する。  ○今後、自分にできることを考えさせ、家庭生活の充実に関心があることを気付かせる。
終末 10分	4 生徒作文の読み聞かせを聞く。		○家族一人一人がかけがえのない存在であるということに気付き、家庭生活を充実したものにするを理解させる。

# 一冊のノート

1年 組 番氏名 \_\_\_\_\_

